

(1) 第4次新潟市食育推進計画 数値指標

No.	指標	策定時 (令和3年度)	最新値	目標値 (令和8年度)	評価	課題・今後の対応等	第5次の方向性(案)	
【1】食を楽しむ 【キーワード】体験(農業・収穫・調理)、共食								
1	食べることを「楽しい」と思う市民の割合	73.3%	69.9%	80.0%	C	「楽しむ」ことから食への関心につながるよう、引き続き啓発を図る。	継続 国では「食育に関心を持っているか」との設問があるが、第4次策定時、より分かりやすい表現となるように検討して設定	
2	1日に1回以上、誰か(家族・友人・知人等)と一緒に食事をしている市民の割合	80.9%	81.6%	90.0%	C	「食育の日」の普及啓発と関連し、「共食」の周知も図る。	継続 不変のため国の動向も見ながら検討	
3	農林漁業体験を経験した市民(世帯)の割合	47.1%	56.5%	50.0%	A	農林漁業体験がさらに市民に浸透し、楽しみながら食への関心が高まるよう取り組む。	削除 達成のため削除	
4	アグリ・スタディ・プログラムを体験し、本市の農業への誇りが醸成された小・中学生の割合	94.0%	93.0%	100.0%	C	本市の農業への誇りが醸成されるよう、取組を継続する。	見直し 評価的には不変だが、高い水準で推移。農業体験に関連する指標は残したい	
【2】食を大切にする 【キーワード】地産地消、食品ロス、食文化継承、SDGs								
5	身近な場所でとれた食材を選ぶ市民の割合	74.8%	74.6%	80.0%	C	給食や食文化継承とも連携させ、地元産の農産物のPRを図る。	継続 不変であり、総合計画指標にも係るため継続。市産農産物等を通して誇りや愛着につなげたい	
6	「食品ロス」を減らすために取り組んでいる市民の割合	97.0%	97.0%	95.0%	A	組織横断的な体制により、今後も食品ロス削減に向けて積極的に取り組む。	見直し 達成しているが、観点としては残したい	
7	学校給食における地場産物を使用する割合(金額ベース)	県内産	58.4%	56.8%	60.2%	C	区役所等との連携のもと、地産地消に協力的な生産者と学校等を繋ぐなど、地域での取組を地道に積み重ねることで、地場産物の提供を通じた食育の推進を図っていく。	継続 物価高騰等課題は多いが、引き続き地場産物の活用を推進していくとともに、活用だけでなく、子どもたちの理解が深まるよう、指導に関してもより力を入れたい
		(参考)市内産	24.7%	24.3%	—			
8	小学校における「食に関する指導」実施校の割合	94.3%	97.1%	100.0%	B	家庭や地域との連携しながら、食育指導を推進する。	見直し 小学校での食指導は十分。対象を中学校にするか、食指導の中で地場産物に係る指導とするかなど要検討	
9	食文化(郷土料理や行事食)を受け継いでいる市民の割合	18歳以上	53.7%	42.3%	70.0%	D	SNS等を活用し、郷土料理や行事食の周知を継続して実施する。また、保育園や学校での給食提供を通じ、子どもへの普及啓発につなげる。	見直し 食文化としての指標は残したいが、聞き方を変える。「受け継いでいる」の定義が難しい(「分からない」と回答した人多い)
		18~39歳	41.5%	34.5%	60.0%	D		
【3】食で健康になる 【キーワード】生活習慣病予防、健康寿命延伸、食の安全・安心								
10	「主食」、「主菜」、「副菜」の言葉や意味を知っている市民の割合	18歳以上	80.0%	—	90.0%	E	広報や各種講習会、健康教育を通じ、引き続き普及啓発を図る。	見直し 指標を整理し、10は11で包括することとし、市の健康課題として「減塩」対策が重要であることを踏まえ、市として横断的に減塩対策に取り組んでいけるよう、指標として追加してはどうか。
		18~39歳	79.9%	—	90.0%	E		
11	主食・主菜・副菜のそろった食事をしている市民の割合	18歳以上	63.2%	75.4%	80.0%	B	食育として、1次予防において大事な視点であり、特に若い世代で課題が残るため継続。	継続
		18~39歳	54.3%	58.4%	70.0%	C		
12	朝食を欠食する市民の割合 ※18~39歳:1週間で「週に1~2回食べる」「ほとんど食べていない」と回答した割合 ※小・中学生:1週間で「ほとんど食べていない」と回答した割合 ※小学生・中学生は全学年を対象とする	18~39歳	23.2%	23.9%	15.0%以下	C	市ホームページ等でのレシピ公開や各種講習会、健康教育を通じ、引き続き普及啓発を図る。	継続 目標未達成であり、若い世代において課題が残るため継続
		小・中学生	1.9%	2.5%	0.0%	D	他部署や民間企業と連携し、食育・健康教育の普及啓発に取り組む。	継続 悪化傾向のため継続。「欠食」ではなく、「食べている」割合に着目し、表現を変更する。

(2) 第5次新潟市食育推進計画 数値指標(案)

No.	指標	目標値 (令和13年度)	
【1】食を楽しむ			
1	食べることを「楽しい」と思う市民の割合	アンケート結果より設定	
2	1日に1回以上、誰か(家族・友人・知人等)と一緒に食事をしている市民の割合	アンケート結果より設定	
3	食指導関連指標	アンケート結果より設定	
4	「ASPを体験し、本市の農業への誇りが醸成されたか」に肯定的に回答した小・中学生の割合	95.0%	
【2】食を大切にする			
5	身近な場所でとれた食材を選ぶ市民の割合	アンケート結果より設定	
6	「食品ロス」関係指標	アンケート結果より設定	
7	学校給食における地場産物を使用する割合(金額ベース)	別途設定	
No.3に移動			
8	食文化関係指標	18歳以上	アンケート結果より設定
		18~39歳	
【3】食で健康になる			
9	減塩を意識し、できていると思う人の割合	20歳以上	健康づくり推進基本計画整合性を図り設定
10	主食・主菜・副菜のそろった食事をしている市民の割合	18歳以上 18~39歳	アンケート結果より設定
11	朝食を欠食する人の割合	18~39歳	アンケート結果より設定
		小・中学生	

【指標設定におけるルール(案)】

- ①大生産地であり、大消費地であるという「新潟らしさ」を大切にする
- ②目標値を100%や0%にしない(※現実的な目標設定に)
- ③中間評価において、達成されているものは見直す
- ④基本目標ごとの項目数を同じくらいの数にする
- ⑤「はい」か「いいえ」で答えられるものにする
- ⑥「&」で結んだ設問にしない(例:「主食・主菜・副菜」の意味を知っていて、そろった食事をしている)

【評価区分】

- A 目標達成
- B 改善傾向(±1割以上の改善)
- C 不変(±1割未満の変化)
- D 悪化傾向(±1割以上の悪化)
- E 評価せず(評価不能)